

資 料

## 英国ケント州を中心とした 教育現場におけるモラル教育の現状と課題

～ Canterbury Christ Church University を拠点とした海外視察より～

林 照 子

Actual State and Difficulties of Moral Education at Educational Sites in Kent, Britain  
: from an Overseas Visit to Canterbury Christ Church University

HAYASHI Teruko

**Abstract** : This study explores moral education in Britain, as understood practically by persons engaged in secondary and higher educational institutes in Kent, and particularly addressing Personal, Social and Health Education (PSHE), equivalent to moral education in Japan. The overseas inspection base was Canterbury Christ Church University (CCCU). These reported results reflect visits overseas to large higher educational institutes fostering several professions and secondary educational institutes at which school education is practiced. Based on the research results and educational systems, themes were identified such as multicultural diversity and symbiosis, and practices of alternative education as well as public education. The research period was immediately after the last change of government, with school education in transition. This study examined how school educational sites would shift to “character education” while maintaining “PSHE education” and “citizenship education,” addressing what is equivalent to the moral education in Japan remaining to be solved. The inspection confirmed that school educational sites had fields in which professions other than educational faculties could work stably. In other words, many systems allow school psychologists, occupational therapists, speech therapists, and school social workers to visit a school stably in accordance with the case of an individual student. However, as specialties become further differentiated, more careful mutual understanding and communication among professions will be necessary, addressing subjects such as who should undertake what roles to provide students with proper support, or what challenges they have and what support is required. Moral education for professions is re-garded as important, even during the stage of training.

**Key Words** : Moral Education, Personal, Social and Health Education (PSHE)

**要旨** : 日本の道徳教育にあたる PSHE (Personal, Social and Health Education) を中心として、ケント州の高等教育機関及び中等教育機関の実務家の捉える英国のモラル教育について紹介する。高等教育機関としては、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (CCCU) を拠点とした。複数の専門職を養成している大型高等教育機関、そして、学校教育実践の場である中等教育機関の海外視察報告をする。調査の概要としては、現地では、教育制度を踏まえつつも、多文化の多様性と共生といったテーマ、また、公教育のみならず、オルタナティブ教育の実践も認められた。調査時期は政権交代まもなく、学校教育は過渡期にあった。日本の道徳教育に相当する内容を扱う従前からの「PSHE 教育」、「シティズンシップ

教育」も抱えつつ、「人格教育」へのシフトがどのように学校教育現場にもたらされるのか、今後の検討課題となった。また、視察により教育職員以外の専門職が安定して活躍するフィールドが学校教育現場に存在していたことが確認できた。子どものケースに応じて、スクールサイコロジスト、作業療法士、言語聴覚士、スクールソーシャルワーカーが安定して学校へ訪問するシステムが多いということであった。一方で、専門性が分化していく中では、誰がどのような役割を担うことが子どもの支援にとって適切であるのか、どのような課題と支援が必要であるのか、より綿密な専門職間相互理解とコミュニケーションが要求される。専門職のモラル教育も養成段階から重要であると考えられる。

キーワード：道徳教育、モラル教育、PSHE

## 1 はじめに

近年、我が国では、いじめによる自殺、子どもによる殺人事件、児童虐待等、心の健康問題が深刻化を増し、道徳教育の充実が求められることとなり、教育課程の改善の方向性となる答申<sup>1)</sup>と学習指導要領の一部改正(2015)により特別の教科「道徳」がなされるにいたった。一方で、従来から、これらの社会問題に対応すべく、道徳の時間のみならず、いじめ防止教育や自然災害、人的事件・事故の心のケアとして、心理教育、ストレスマネジメント教育等が特別活動の時間の中で実施されてきた経緯もある。これらの指導にあたる教員は学級担任や科目担当者だけではない。心理専門職、養護教諭、栄養教諭といった教科外担当教員も関わっている。いわば「道徳的実践力」<sup>1)</sup>の指導については、特別活動の時間も含めた学校全体で行ってきたこととしてあげられる。つまり、今後はさらに、学校教育活動全体で行う道徳教育は、教科「道徳」とともに学校の実情に応じて系統的で効果的なカリキュラムが求められよう。

我が国独自の道徳教育の在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とし、社会背景の異なる他国の教育の実情と教育課程を参照する。本論では、日本の道徳教育にあたる PSHE (Personal, Social and Health Education) を中心として、ケント州の高等教育機関及び中等教育機関の実務家の捉える英国のモラル教育<sup>ii)</sup>について紹介する。

高等教育機関としては、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学(CCCU)を拠点とした。本学とも教育交流のあるカンタベリー・クライスト・チャーチ大学は、優れた専門職教育を提供してきた歴史がある。特に、幼児教育・教育研究など教育者になるためのプログラムやその研究を行っていることが知られている。幼児教育、初等教育、義務教育以降の教育、教育学研究、大学院初期教師教育、といったように、「ファウンデーションから博士課程までの教育」といったプロフェッショナル教員養成をモットーとしている。さらに、地域社会と連携した学習も提供していることが知られている。本学看護学科との交流もあるヘルス・ソーシャルケア Health & Social Care 学部にあっても、地域の健康とソーシャルケア分野の教育と研究の中心となるというビジョンに基づく教育プログラムを開講している。

以上のように複数の専門職を養成している大型高等教育機関とともに、モラル教育実践の場である中等教育機関を中心として行ったフィールドワークの内容を報告する。

## 2 英国の教育と現状

イギリスは、イングランド、ウェールズ、スコットランド及び北アイルランドの4地域 county からなる連合王国であり、それぞれ共通性を持ちつつも特色ある教育制度を有している<sup>2)</sup>。国レベルの教育行政機関は、教育省 Department for Education (DfE) であり、教育行政全般の業務にあたる。政府の一機関である教育水準局 Office for Standards in Education, Children's Services and Skills (Ofsted) は、教育省と独立した組織として、民間の登録視学官によって全国の学校は評価をうけるシステムとなっている。地方の教育行政は、地方教育当局 Local Education Authority (LEA) によって行われている。

教育課程については、ナショナル・カリキュラム（1989）が制定されているが、わが国の小学校から中学校までにあたる11年間をKS（Key Stage）、3 - 5歳のKS1、7 - 11歳のKS2、11 - 14歳のKS3、14 - 16歳のKS4に分けている。学校系統図については図1に示す。各教育課程の科目の内訳は表1のとおりである。

PSHE（Personal, Social and Health Education）とは、自己理解・他者理解に基づく人間関係や、健康教育、性教育、薬物防止教育、ジェンダーや民族に着目した人権教育、安全教育、市民教育というように包含する内容は多岐にわたっており、宗教教育や道徳教育との関連もみられる<sup>3)4)5)</sup>。1999年に改訂されたナショナル・カリキュラムとして位置づけられている。ただし、そのKS1、

KS2では学校による選択科目であり、KS4になると科目としてなくなっている。PSHEの健康教育は日本の保健教育に近い内容と考えられる。日本の場合、性教育は保健教育の中に含まれているが、別科目としてたてられ、KS3から必修科目として実施される。日本の道徳教育に該当する科目としては、PSHEやシティズンシップ教育（市民教育）として実施されていると考えられる。シティズンシップ教育については、小学校では既存の教科であるPSHEの内容に非必修の形で追加する形をとっており、中学校での段階では2002年から必修教科として新しく設置された。ナショナルカリキュラムとして骨子は示されたが、具体的にどのように実施するかについては現場の裁量にゆだねられる部分が多いようである<sup>4)</sup>。また、英国では、16世紀からの伝統として宗教教育がある。

このような流れの上に近年、英国の政治的背景として2015年総選挙で保守党が勝利したのち、初等中等教育を担当している当時の教育大臣が教育方針について次のように表明している。

「全ての子どもたちの成長と学習に必要なツールを与えるという過去5年間の政府の取組を確認し、基礎・基本となる知識・技能の習得の重要性を改めて強調」かつ、以下3点の施策に言及している<sup>5)</sup>。第一に、義務教育終了段階の生徒の学習到達度をみる「イギリスバカロレア English Baccalaureate (EBacc)」の普及、第二に、人格教育 Character Education の振興、第三に、アカデミーとフリースクールの推進、である。特に第二については、「人格教育は子供が品のある、幸福でバランスのとれた市民となることを支援するものである。学業の成功は一部でしかなく、目の前の困難に立ち向かい、積極的な市民と

表1 イギリス教育課程

KS1、KS2	KS3	KS4
必修	必修	必修
英語、数学、科学、デザイン・テクノロジー、歴史、地理、芸術、音楽、体育、コンピューター、古代・現代外国語 (KS2)	英語、数学、科学、デザイン・テクノロジー、歴史、地理、芸術、音楽、体育、コンピューター、現代外国語、市民性教育、宗教教育、性教育	コア教科：英語、数学、科学 基礎教科：体育、コンピューター、市民性教育 一教科必修：芸術、デザイン・テクノロジー、人文学、現代外国語  *宗教教育、性教育も必修
学校による選択	学校による選択	学校による選択
PSHE, 市民性教育、現代外国語 (KS1)	.....	.....

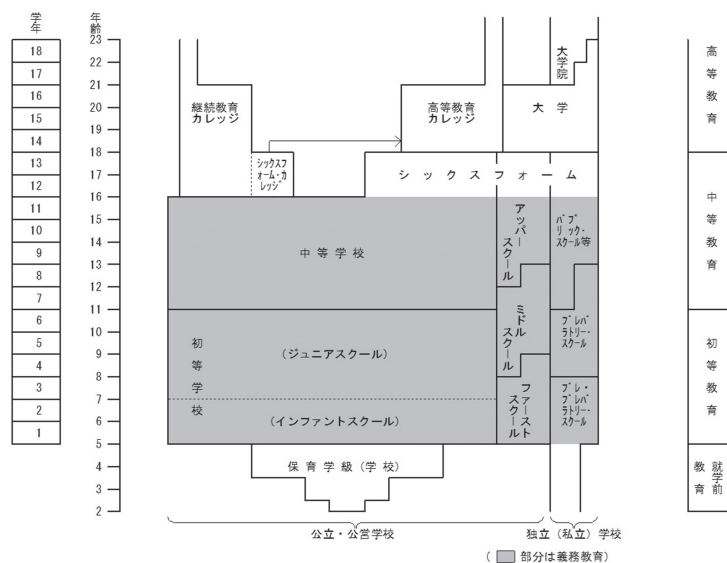


図1 イギリス教育制度（参考文献2より引用）

して社会に参加し、正しい判断ができ、自らの道徳を打ち立てることが若者に求められている」などとして、振興補助金を導入するなど力を入れる方向性にある。本論の視察時期は政策表明後、年度経過間もない時期であった。

### 3 視察概要

#### 1) 現地調査期間：2017年2月28日～3月10日

表2 視察スケジュール

Tuesday, 28th February	Ruth Rogers: Research Centre for Children, Families and Communities Nicola Abbott: Moral Education and Bullying in Children
Wednesday, 1st March	Prof. Catherine Meehan: Early Childhood Development
	Rayya Ghul: Post Grad. Certificate in Academic Practice
	Prof. Eve Hutton: Supporting and working with children with special needs
	Attend lecture with Eve Hutton "Inclusive Education"
Thursday, 2nd March	Stephen Webb: Occupational therapist with children and young people <b>Prof. Simon Hoult/Andrew Peterson: Moral Education</b>
Friday, 3rd March	Library Based search Activities: Moral Education in the UK
Monday, 6th March	Dr Claire Hughes-Lynch :Inclusive Education Georgina Godsen :Program Director SENI BA Seminar : Services for specialist provision for children, young people and families
Tuesday, 7th March	John Gilmore: Youth Working/Inclusive Education
Thursday, Wednesday, 8-9th March	<b>School Visit</b>
Friday, 10th March	Rajeeb Sah : Public Health/Education for Young People

#### 2) 実施内容及びその結果：（表2参照）

CCCUの中でも専門職の養成に関わる担当教員を中心に「モラル教育」「UKにおけるインクルーシブ教育」「専門職教育」をキーワードとしてインタビュー調査を行った。インクルーシブ教育については、社会的包摂を意味し、多様な価値や文化的アイデンティティをもつ市民を抱える英国の社会背景の理解を深めることを目的とした。インタビューの対象者は、視察目的に応じ、本学と交流のある看護師養成担当教員によってコーディネートされた。

以下、学校教育場面における実務と役割の概要について取り上げる。

##### (1) 高等教育機関（CCCU）

大学の教育内容の充実のために運営機関として、CCCU独自の高等教育教員の教授法サポートシステムがある。日本のFD活動よりも組織的であり、専門的知識をもったプログラムの主任教員を中心としたスタッフによる多文化の教員もふくめたアドバイス、教授法やICTを含めたキャリアに応じた支援体制を用意している。

##### ①社会貢献機関 子どもとその家族を支援するセンターの設置

センター長から現在抱えている多くの問題の一つとして、移民の子どもの教育の適応について相談業務を行っている。

##### ②専門職養成

・臨床心理学者・サイコロジスト

学生とともにサイコドラマによるいじめ予防的介入研究を行っている。

・作業療法士

英国のパブリックスクールでは、多職種がケースに応じて直接学校へ専門職が出向き、子どもとその家族に対する支援のコンサルテーションを行っている。職種としては、作業療法士、スクールサイコロジスト、スピーチセラピストである。理学療法士については前者よりもケースは少ないものの、子どものニーズに応じた専門家支援が行われている。

・医療従事者

スクールナースに関して言えば、日本のような包括的な教育的役割ではなく、役割限定的である。

CCCUの公衆衛生学分野の実務家大学院生（医師・看護師）と情報交換をする機会があった。彼らの中には、実務家としての仕事だけではなく、大学で学部学生教育にあたりながら、HIV教育、特に学校教育を離れた青年に対する若者への介入研究を行うことで、ケント州を拠点とした地域貢献も担っていた。

・初等教育教員養成及び特別支援教育の資格プログラム

学部教育だけではなく、新任教員に対するアセスメントシステムを持っていること、特別支援（SEN）の役割はコーディネートであり、いくつかのセミナーへの参加によって専門性を習得するコースがあるが、ライセンスではない。特別支援教育の資格プログラムのコースガイダンスを設定している。このコースの授業においては実際にケント州教育委員会の示すコード Kent Family Support Framework : Guidance Update for Schools and Part-ners（2016年9月）をもとに学生がディスカッションする能動学習もみられた。日本とは異なるのは、インクルーシブ教育の中心的課題は異なる文化圏からの移民の子どもへの理解を必要としており、大学教育の授業では、VTRでヨーロッパの様々な教育実践を見ながらの能動的学習方法を工夫している。

③モラル教育学 専門課程

モラル教育、特に、シティズンシップ教育を研究している研究者のインタビュー協力を得た。協力者は、亡命してきた子どもへのフィールド調査研究を行っており、質的研究に展開している大学教員であった。以下、その要点を述べる。

教育学部大学生には現職教員の講師と共に科目を担当しているものもある。しかしながら、日本のような教職課程科目「道徳教育の指導法」の位置づけで行っているわけではない。日本の道徳教育に近いと考えられる学部モラル教育は、大学研究者と現職教員教育を行っている講師と隔週で科目を担当していた。

英国におけるモラル教育の動向と学部教育に関していえば、まず、モラル教育とひとくくりに言っても、国によって関心のあて方がやや異なることを指摘された。英国、日本、シンガポール、中国、香港などに研究に行ったことのある対象者は、たとえば、シンガポールでは、近年、市民性 civics や人格教育 character education に関心がよせられてきており、英国では PSHE といったような科目、シティズンシップ教育を通して行われている。特に本年度（2017）はシティズンシップ教育と人格教育の関係に着目してきた、という。歴史的な背景と政治的な流れの変化が大きいと強調されていた。以下一部その抜粋を引用する。

“We’re holding an event later this year looking at the relationship between citizenship education and character education, but there’s not a specific – and obviously it can come into, so we would probably argue, it does come into geography and history education and English and almost every, or if not every subject, but we don’t have a subject as the main subject for moral education.”

“The current government is very interested in character education, and so they’ve put a lot of money and resource and emphasis, but character education is still taught almost across the curriculum or through school ethos and extracurricular activities and clubs rather than a few schools, particularly independent schools may have set lessons on the timetable, but most schools might do it through forum type and assembly and an activity.”

実務家教員も以下のように近年の教育政策について述べている。

“I think that’s exactly the case, and there’s a change with each government in all aspects of education. There was a theme called spiritual, moral and social and cultural education, which was a theme that the previous government were working on and there were various textbooks for schools and for the student teachers to learn about those and to integrate that into their own subject area, geography is mine for example, but character education is the key thing the government is into at the moment.”

教員養成に関していえば、バーミンガム大学において人格教育に関する研究チームが立ちあげられており（Statement on Teacher Education and Character Education, 2015）<sup>7)</sup>、このチームが研究活動の中心

的な役割を果たしているとの情報を得た。

授業の展開については、教育学の理論とともに、実務家教員がEU諸国の多様な教育環境と実践内容を動画で提示し、学生に文化的背景を考えさせるような工夫をしている。

## (2) 私立中等学校

教育課程の独自性のある私立学校2校を視察した。PSHEのカリキュラムのうち、「健康」について関与していると思われるスクールナース及び学校担当者へのインタビューを行った。

A校(写真1～5): 1894年創立女子校 11～18歳 全寮制。  
在籍約420名

外部入校制限の厳しい寄宿学校であった。モラル教育担当者から教育内容について聞き取る機会には恵まれなかったが、PSHE教育についてスクールナースの関与を直接確認する機会が設けられた。いわゆる日本の学校にある保健室は、Health Centerという名称で、スクールナースが常駐する。ただし、全寮制であることもあり、生徒の健康管理のために、勤務シフトの違う複数のスクールナースが雇用されている。地域のヘルスセンターから、看護師資格後スクールナースの有資格者を学校に派遣し複数の学校を受け持っているケースがほとんどである。インタビューでは、



写真1 A学校受付入口



写真2 Health Center とスクールナース



写真3 Health Center 内 受付待ち合い室



写真4 Health Center 内 談話室



写真5 Health Center 内 学校医執務室

スクールナースに相当する日本の養護教諭が、道徳教育や PSHE に相当する科目のカリキュラムに参画し、教育実践する場合があることを説明し、これに関する考えを自由に述べてもらった。

A 校のスクールナースは、「私たちは教師ではありませんからカリキュラムを検討したり授業計画に参画することはありません。」とはっきりその職務範囲を述べていた。この点は、日本の教育制度にあって教育職員として位置づけられている養護教諭とは異なっていた。性教育のカリキュラム内容については教員が担当し、スクールナースは半ばオーダーされた形でゲストスピーカーとして決められた内容の数時間を担当するということであった。

よって、日本のように心の健康教育といった特別活動の時間を利用した保健指導として道徳教育に参画することはないとのことであった。A 私立学校の体制によるのかもしれないが、この教育システムは、彼女の話ではごく当たり前である様子であった。

B 校 (写真 6～11)：共学 35 か国の自宅通学・入寮生徒が在籍している。

B 校においては、多国籍の生徒の入学受け入れをしていることや、学習に困難を示す事例にも対応するために、モラル教育の課題は大きい、ということであった。スクールカウンセラーとパストラルケア担当教員、スクールナース、担任教員が検討会議を実施していた。

PSHE の授業見学に恵まれた。KS3 の「喫煙」に関する健康教育であった (写真 7)。導入には生徒が学習内容を予測できるようにタバコに関する広告やイメージを提示し、日本のようにテキストはなく、学校で計画された内容をパワーポイントで提示しながら、「すでに知っている内容はありますか?」「ペアになって自分の考えをブレインストーミングで出し合い、それからグループにフィードバックしてみよう」と教師が発問を立てながらグループワークを取り入れ、授業進行し、まとめとして DVD を



写真 6 B 校



写真 7 PSHE の授業風景



写真 8 Health Center

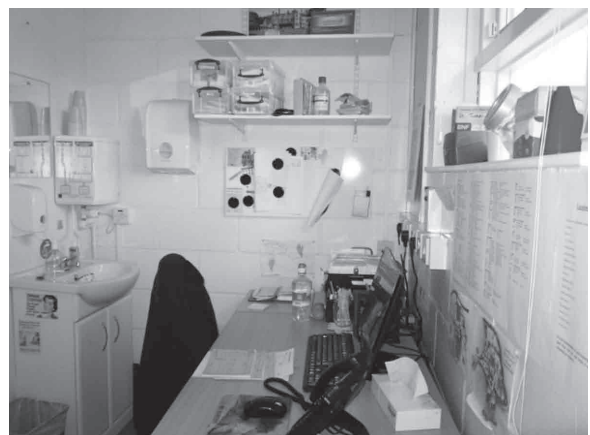


写真 9 スクールナース執務室



写真10 生徒の目標



写真11 B校教頭(左)と学校案内生徒(右)と筆者

見て学習内容を確認する授業展開であった。

校舎はコテージ風に敷地内に分かれており、ステージごとの教育目標が掲示されている(写真10)。教育目的を教育ステージごとのフロアに示すとともに、いじめや心の健康、進学に対する相談の案内も掲示されていた。また、上級生徒の自主活動として「ゲートキーパー」の活動があると紹介された。つまり、教師には話すことのできない友人関係の悩みの相談を受けたり、気になる後輩に対する声掛けを行う活動といったものである。B校は、学校案内は最高学年の生徒に実施させている。生徒の言葉のほう为学校の姿を示しやすいことがあることで、学校としては積極的に取り組んでいる。

本調査2校ではスクールナースの目線で健康教育への関与について聞き取りをしたが、モラル教育の位置づけという文脈では切り取れなかった。特に、教育目標の異なる両校であってもPSHEの教育実践は、スクールナースという専門職の範囲として受け止められていなかった。パストラルケア担当教員が学校全体のカリキュラムをコーディネートし、学年担当教員が教育実践を担っていた。特に、B校に関しては、多様な生活文化背景をもつ生徒に対して学校生活全体を通じてモラル教育をどのように位置づけるか、教員がチームで話し合う機会がみられる。

#### 4 今後の課題

まず、モラル教育について考えたい。本調査では、学校独自のカリキュラムを示す材料の入手が不十分であったものの、拠点となる大型養成機関としての高等教育や特色ある中等教育のフィールドによって教育制度とそれを運用する教育現場の実情を知る手がかりとなった。特に、国の社会情勢や教育政策が教育課程に影響を及ぼすことを念頭におく必要がある。我が国の場合には、いじめ、児童虐待等、心の健康問題が深刻化に対する道德教育と関連づけられる。教科化によって他の教科とともに、文部科学省から学習指導要領によって初等中等教育課程のスタンダードが示されて全国に周知実施されてきた経緯がある。また、我が国の戦後の開放制による高等教育機関の教員養成は、平成29年改正教育職員免許法によって、教職課程コア・カリキュラムの提示、課程認定による教員養成段階の教育の質の担保、教員採用機関である行政との連携も強調される。

近年、多くの移民を抱える英国の文化的社会的背景とEU離脱もふくむ政策の動向から、PSHEをはじめ宗教教育、人格教育が、ナショナル・カリキュラムとしてどのように受け入れられているのだろうか。英国の場合には、前述の多様な教育課程、学校種が存在し、モラル教育の一端を担うPSHEについては、ナショナル・カリキュラムで示されたものの、法的拘束力のない学校独自のカリキュラムとして実施される。教員養成もコア・カリキュラムが示されるわけではなく、各学校で自家採用されるケースが多い。

本視察においては、経済格差の大きい地域から隔離されていたものの、視察対象中等教育学校及び



高等教育機関においても、多文化の共生をどのように教室環境や学校生活で捉えるかがモラル教育の大きな課題である、と確認できた。この点に関しては、英国の社会的剥奪度の高い地域の小学校でシティズンシップ教育のフィールド調査研究（北山,2014）からヒントを得ることができる。子どもの生活実態にあわせてフレキシブルに教育目標と内容を実践することで、道徳的・社会的責任の要素を育て、子どもの能動的な意思決定やエンパワメントされることが目指されると指摘している。

さらに、中等教育 B 校の教頭先生の印象的な談話があったので紹介する。「UK は政権交代によってナショナル・カリキュラムの改訂、当局からのプレッシャーによる影響も大きい。しかし、私たちは独立学校であるため、自分たちのポリシーと信念による教育を行うことができる」と、私立学校ならではの教育の実現可能性について語られていた。

以上から、英国は教育制度も複雑であるが、特に、多文化の多様性と共生といったテーマ、また、公教育のみならず、オルタナティブ教育の実践から学ぶところがあると考えられる。ただし、この場合、経済格差、同じ地域に居住しながらも宗教的な信条等による個別化と英国のシステムにおける学校評価を丁寧分析することができなければ一面的な理解にしかならないであろう。

本調査期は、CCCU のモラル教育を専門とする大学教員が語ったように、政権交代まもない時期であり、学校教育は過渡期であった。日本の道徳教育に相当する内容を扱う従前からの「PSHE 教育」、「シティズンシップ教育」も抱えつつ、「人格教育」へのシフトがどのように学校教育現場にもたらされるのか、今後の検討課題となった。また、学校教育を提供する側からだけでなく、家庭とその子どもたちがこれらの教育をどのように受け止めているのか、今後も調査が重ねられる必要がある（山口, 2016）。

最後に学校教育システムと専門職の役割について考えたい。本視察により教育職員以外の専門職が安定して活躍するフィールドが学校教育現場に存在していた。子どものケースに応じて、スクールサイコロジスト、作業療法士、言語聴覚士、スクールソーシャルワーカーが学校へ訪問するシステムが多いということであった。ケント州の場合、教育委員会で、Kent Family Support Framework : Guidance Update for Schools and Partners（2016 年 9 月）が定められており、子どもとその家族を中心としたチーム支援体制のガイドラインが明確に示されていた。本事例校のスクールナースについては、他の専門職同様に地域の医療を担うことであり、教室に入って性教育の教育内容の一部を担うことはあるが包括的な職務にはなかった。日本の場合、契約された非常勤のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが学校支援に関与し、養護教諭は教育職であるため、子どもの健康管理、健康教育のセンター的役割を果たす。つまり、学校教育活動全体を通じて「道徳教育」の一翼を担う。日本の場合には健康教育と道徳教育の橋渡しを可能にする特別活動、総合的学習の時間が教育課程に存在する。

以上から、専門性が分化していく中では、誰がどのような役割を担うことが子どもの支援にとって適切であるのか、どのような課題と支援が必要であるのか、より綿密な専門職間相互理解とコミュニケーションが要求されるのである。そういった意味で、専門職のモラル教育も養成段階からますます重要となる。

#### <参考文献・引用文献>

- 1 中央教育審議会 2014 道徳に係る教育課程の改善等について（答申）
- 2 文部科学省 2010 『諸外国の教育改革の動向 - 6 か国における 21 世紀の新たな潮流を読む -』ぎょうせい
- 3 堀内かおる 2004 英国における子どもの人格的・社会的発達支援教育の様相 - PSHE (Personal, Social and Health Education) をめぐる歴史・社会的背景と教育現場の状況, 横浜国立大学教育人間科学部紀要 I, 教育科学 6, 145 - 162.
- 4 北川夕華 2014 英国のシティズンシップ教育 早稲田大学出版部
- 5 山口裕毅 2016 英国シティズンシップ教育の振興と展開 中国四国教育学会第 68 回大会抄録
- 6 文部科学省 2016 『諸外国の教育動向 2015 年度版』明石書店
- 7 Statement on Teacher Education and Character Education University of Birmingham

本研究については科学研究費 基盤研究 (C) 一般によるものである。

課題番号 16K04789 「大学教職科目における「道徳実践力」を目指したケースメソッド教育の開発と評価」  
(代表：林照子)

**<謝辞>**

カンタベリー・クライスト・チャーチ大学の Andrew Southgate 先生及び調査協力者の皆様、Simon Powell 先生はじめ中等教育学校の先生方へ深く御礼申し上げます。また、視察についてご教示下さった山口裕毅先生に御礼申し上げます。

---

<sup>i</sup> 道徳的実践力とは、「人間としてよりよく生きていく力であり、一人ひとりの児童生徒が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質」(小学校学習指導要領)。現在、道徳性の実践的側面ないし実践可能性という視点からとらえられている。

<sup>ii</sup> 本論では、他国の教育の取組みを論じるうえで、日本の従来の道徳教育、そして近年の学習指導要領の改正による特別の教科「道徳」と学校教育活動全体で行う「道徳教育」を包括的に扱うために「モラル教育」とした。